

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会 （第11期）の審議状況について

第10期に、これまで実施の度に作業部会で定めていた各種評価（事前評価、進捗評価、期末評価）の方法や、年次計画終了後、後継計画へ移行する際の手続等を整理した「大規模学術フロンティア促進事業のマネジメント」を策定（令和3年1月）。

<令和3年度の状況>

- (1) 令和3年度に年次計画が終期を迎える事業について、事業移行評価（期末評価に代替）を実施。

【事業移行評価実施事業】

- ・ 大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の共同利用研究
- ・ 新しいステージに向けた学術情報ネットワーク（SINET）整備

- (2) 事業移行評価を踏まえ、後継計画に対する事前評価を実施。

【事前評価実施事業】

- ・ 大型光学赤外線望遠鏡による国際共同研究の推進
- ・ 研究データの活用・流通・管理を促進する次世代学術研究プラットフォーム

<令和4年度の予定>

令和4年度も、年次計画の終期を迎える事業があることから、事業移行評価及びその結果を踏まえた事前評価を実施する予定。

令和3年度に実施した事業移行評価・事前評価結果（抜粋）

<事業移行評価>

R3.6.15 大規模学術フロンティア促進事業の「事業移行評価」（報告） 「大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の共同利用研究」

4. プロジェクトの進捗評価と今後の留意点

(1) プロジェクトの達成状況を踏まえた評価

(略)「大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の共同利用研究」は当初の目的を達成し天文学をリードする優れた成果を創出しており、その意義、成果、波及効果等を活かしつつ、後継計画へ移行することは適当であると評価できる。

R3.6.15 大規模学術フロンティア促進事業の「事業移行評価」（報告） 新しいステージに向けた学術情報ネットワーク（SINET）整備

4. プロジェクトの進捗評価と今後の留意点

(1) プロジェクトの達成状況を踏まえた評価

(略)「新しいステージに向けた学術情報ネットワーク（SINET）整備」は当初の目的を達成しており、その意義、成果、波及効果等を活かしつつ、後継計画へ移行することは適当であると評価できる。

<事前評価>

R3.7.28 大規模学術フロンティア事業の「事前評価」（報告） 「大型光学赤外線望遠鏡による国際共同研究の推進」

3. まとめ

(1) 総合評価

(略) 本計画は積極的に進めるべきであり、早急に着手すべきであると評価する。

R3.7.28 大規模学術フロンティア事業の「事前評価」（報告） 「研究データの活用・流通・管理を促進する次世代学術研究プラットフォーム」

3. まとめ

(1) 総合評価

(略) 本計画は積極的に進めるべきであり、早急に着手すべきであると評価する。